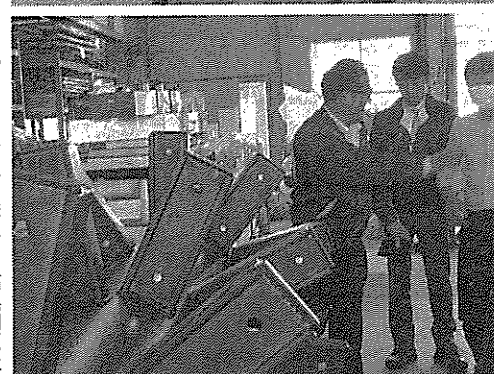


見学会特化で盛況に

食リ推進全国大会

群馬3施設を集中視察

「現場に学ぶ」の原点



全国食品リサイクル連・高橋巧一会長は、全国大会in北関東プロ連・高橋巧一会長は、登録再生利用事業者事務連絡会(全食リ事務)11月2日、群馬県内で「食品リサイクル推進」肥料化施設など3カ所

の施設見学会に特化した大会で、当日は会場を中心に全国から46人が参加。同業者の取り組みや知見を積極的に自社の業務に生かそうと、各施設の現場を熱心に見て回った。当日は、登録再生利

用事業者で乾燥飼料化に取り組み高尾商店(千代田市)、堆肥プラントメーカーの岡田製作所(館林市)、肥料化と飼料化に取り組み登録再生利用事業者のリアプロテック(前橋市)の順にバスで移動しながら見学会した。各見学会では、工程ごとに参加者が担当者の説明に聞き入り、随所で同業者らしい具体的な質問をしていた。同連絡会が、施設見学会に特化した全国大会を行うのは6年ぶり。最近5年間は講演やシンポジウムを核に大会を構成していたが、今回は原点に立ち返り、現場の具体的な事例か

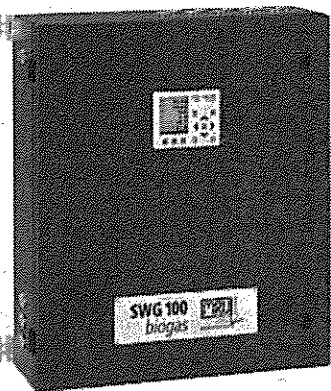
木材情報

増えるバイオマス

前回の小欄で指摘したように、FITの認定の一般木質バイオマス発電については4割がパーム油を使用したものだといふ。パーム油については一定温度以上では物性が重油と似ていることで、重油向けの発電機を使用しやすいことなどから、コストが低いと言われている。一方で値動きが大きいことやアラヤシ農園の拡大が熱帯雨林の破壊につながっているという指摘もある。すでに使用された残さであるPKSは廃棄

ハイポテック バイオガス分析器を発売

除湿や圧力の制御が不要



バイオガス分析器「ガスアナライザ-SWG100」

環境エンジニアリング事業を展開するハイポテック(東京・中央、佐竹英明社長、03・05503・2501)はこのほど、バイオガス分析器「ガスアナライザ-SWG100」を発売した。同社はこれまで、バイオガス生成装置やガス精製装置等の製作・拡販を通してメタン発酵バイオガス化事業の普及に力を入れてきた。今回、新たに分析器を手掛けることで、さらに質の高い顧客サポートに努めていく。

付帯設備が必要なものが多いが、ハイポテックのバイオガス分析器は、海外製だが、使い勝手が良く汎用性が高いことを確認。顧客のニーズを受け、販売にも乗り出した。同器は設置型で、バイオガスの他、バイオメタン、埋立地ガス、炭層メタンのガス成分構成を測定するもの。実際のメタン発酵施設や埋立地、下水道で発生するバイオガスは、温度や流量の変動が大きく正確な分析が難しいケースが多くある。同器は前処理せずに、さまざまなガス発生状況に合わせた分析を行うことができるという。

バイオガス分析器は、高さが700×幅600×奥行210mm、重量は25kgで、持ち運び可能なコンパクトな構造だ。屋内外どちらにも設置できる。同社の再生エネルギー事業部の乃村博之氏は、「環境エンジニアリングの分野で培ったノウハウを生かし、機器の製作・販売だけでなく、バイオガス事業者のサポートにも注力してきている。今後も顧客や地域に先進的な事業の在り方を伝え、再生可能エネルギーの拡大につなげたい」と話している。

第1回食品ロス削減全国大会

全国の消費者・事業者・自治体関係者など運動一発祥の地として集まり食品ロスについて学び考える場として「第1回食品ロス削減全国大会」が10月30日、まつもと市民芸術館(長野県松本市)で開催された。パネリストは、省、農林水産省、消費者庁が共催した。大会の10月30日を「食品ロス削減の日」とすること、市長は「食品ロス削減の機会であり今後の取り組みの礎を築きわ

めて意義深い会になる」と確信している」とあいつつ、オープニングインフォメーションでは松本市の担当者が環境学習などの取り組みを紹介し「気付きの場をいかに作るかが重要」と話した。

者代表の全国生活学校連絡協議会、開催自治体の松本市の担当者が参加。崎田氏は食品ロス削減のポイントとして「データを取得し、関係者と情報共有すること、連携をすること、の3点を挙げ「取り組みの方向性が見えてきた」と指摘。10月30日を「食品ロス削減の日」と定めるといふ松本市の提案に合意し、関係者が継続的に話し合

10月30日を「削減の日」に

来年京都で第2回大会



10月30日を食品ロス削減の日とする結論がまとめられた

10月30日を「食品ロス削減の日」とすること、市長は「食品ロス削減の機会であり今後の取り組みの礎を築きわ

2017年9月のPKS輸入の数量と金額(貿易統計より)

国名	当月		累計	
	数量	金額	数量	金額
合計	1万7156t	14万8978t	15万9635t	129万5423万円
マレーシア	1万1212t	3万8625t	4億3307万円	1万1337円
インドネシア	1万541t	11万9353t	11億6329万円	1万1413円

金額ベースでは、総輸入量の増加に伴って15億9635万円を計上した。前月は4億7129万円増(14.9%)、前年同月比は7億85万円増(17.8%)。単価は1万7155円で、今年に入ってから最安値だ。前月より914円も安

バイオマスCO2で 三マテリアル 実用化